

# 「2010年 夏季・冬季 賞与・一時金調査結果」の概要

2011年4月14日

(社) 日本経済団体連合会

## 調査要領

調査目的：企業における賞与・一時金の支給実態を把握し、今後の賃金対策の参考とするため、1953年から毎年実施

調査対象：日本経団連企業会員および東京経営者協会会員企業 1,931社

対象時期：夏季賞与 2010年6月、7月支給分

冬季賞与 2010年11月、12月支給分

回答状況：集計企業数 302社 (有効回答率 15.6%)

(製造業 56.3%、非製造業 43.7% 従業員 500人以上規模 79.8%)

## 調査結果の概要

### 1. 賞与・一時金の水準 —全産業— (図表1)

支給額を非管理職・管理職別にみると、非管理職は夏季70万2,429円(対前年増減率2.9%)、冬季70万5,328円(同2.0%)、管理職は夏季137万6,091円(同4.7%)、冬季131万4,736円(同3.8%)であった。

対前年増減率は、2009年調査では非管理職・管理職、夏季・冬季ともに1953年の調査開始以来最大のマイナス幅であったが、2010年調査ではいずれも3年ぶりにプラスに転じた。

図表1 賞与・一時金支給額の推移(非管理職・管理職別) —全産業—

	非 管 理 職						管 理 職					
	夏 季			冬 季			夏 季			冬 季		
	支給額	月数	対前年増減率	支給額	月数	対前年増減率	支給額	月数	対前年増減率	支給額	月数	対前年増減率
	円	月分	%	円	月分	%	円	月分	%	円	月分	%
2001	708,079	2.2	1.8	723,884	2.2	△0.9	1,203,461	2.2	0.4	1,193,400	2.2	△3.9
2002	691,735	2.2	△5.0	712,524	2.3	△4.5	1,228,840	2.2	△5.6	1,247,899	2.3	△4.4
2003	692,172	2.2	0.4	706,509	2.3	0.2	1,216,084	2.2	△1.0	1,224,225	2.2	0.3
2004	687,115	2.2	3.0	713,239	2.3	3.7	1,245,075	2.2	4.3	1,259,156	2.3	2.8
2005	745,362	2.4	5.4	760,817	2.4	5.1	1,417,085	2.5	7.5	1,386,446	2.5	6.2
2006	794,052	2.5	4.0	782,769	2.4	3.8	1,522,490	2.6	4.0	1,388,780	2.5	4.8
2007	789,535	2.4	1.7	783,656	2.4	0.9	1,484,620	2.6	1.2	1,427,075	2.5	0.8
2008	766,125	2.4	△0.9	764,316	2.4	△1.7	1,482,296	2.6	△1.9	1,418,239	2.5	△3.1
2009	669,121	2.1	△14.6	664,239	2.1	△12.6	1,298,750	2.3	△16.6	1,240,821	2.2	△13.2
<b>2010</b>	<b>702,429</b>	<b>2.2</b>	<b>2.9</b>	<b>705,328</b>	<b>2.3</b>	<b>2.0</b>	<b>1,376,091</b>	<b>2.4</b>	<b>4.7</b>	<b>1,314,736</b>	<b>2.3</b>	<b>3.8</b>

注:1)対前年増減率の△印は減少を示す

2)対前年増減率は、それぞれの年における回答企業の前年の支給額から算出

3)回答企業は集計年ごとに異なるため、集計値の経年推移をみる際には留意されたい

## 2. 産業別の状況 (図表2)

支給額（非管理職）を産業別にみると、製造業では夏季70万4,962円、冬季72万4,791円、非製造業では、夏季69万9,115円、冬季68万1,051円であった。

対前年増減率は、製造業では夏季5.1%（2009年調査 マイナス16.8%）、冬季6.1%（同マイナス14.4%）と、夏季・冬季ともプラスとなった。一方、非製造業では、夏季は0.2%のプラス（同マイナス11.0%）であったが、冬季はマイナス3.1%（同マイナス9.9%）となっており、製造業と非製造業とで違いがみられる。

図表2 産業別の賞与・一時金支給額 —非管理職—

産業別	夏 季				冬 季				
	集計 企業数	支給額	月数	対前年 増減率	集計 企業数	支給額	月数	対前年 増減率	
全産業平均	社	円	月分	%	社	円	月分	%	
	<b>217</b>	<b>702,429</b>	<b>2.2</b>	<b>2.9</b>	<b>218</b>	<b>705,328</b>	<b>2.3</b>	<b>2.0</b>	
製 造 業	食料品	6	961,184	2.9	2.0	6	996,848	3.0	2.7
	繊維・衣服	3	554,012	1.9	△2.9	3	576,786	2.0	3.4
	紙・パルプ	4	646,628	2.2	4.4	4	643,691	2.2	2.0
	化学・ゴム	25	769,880	2.4	11.7	24	792,083	2.5	10.4
	石油・石炭製品	1				1			
	窯業	3	709,171	2.4	0.9	3	749,968	2.5	2.6
	金属工業	12	613,813	2.0	△6.2	11	610,385	2.0	△7.2
	機械器具	61	641,770	2.1	6.8	61	661,805	2.2	9.4
	新聞・出版・印刷	4	1,156,660	2.8	△2.4	4	1,140,178	2.8	△4.8
その他の製造業	4	855,540	2.6	11.1	4	947,340	2.9	14.7	
製造業平均	<b>123</b>	<b>704,962</b>	<b>2.2</b>	<b>5.1</b>	<b>121</b>	<b>724,791</b>	<b>2.3</b>	<b>6.1</b>	
非 製 造 業	土木建設業	15	622,511	2.1	2.6	15	495,524	1.7	0.7
	卸売・小売業	22	791,062	2.5	3.9	22	798,981	2.5	△2.0
	金融・保険業	6	586,116	2.1	3.9	6	563,095	2.0	△4.0
	運輸・通信業	18	766,422	2.2	△9.6	21	750,008	2.3	△10.2
	電気・ガス業	6	744,156	2.3	1.0	6	762,948	2.3	4.0
	サービス業	27	636,984	2.1	3.2	27	642,410	2.1	△0.1
非製造業平均	<b>94</b>	<b>699,115</b>	<b>2.2</b>	<b>0.2</b>	<b>97</b>	<b>681,051</b>	<b>2.2</b>	<b>△3.1</b>	

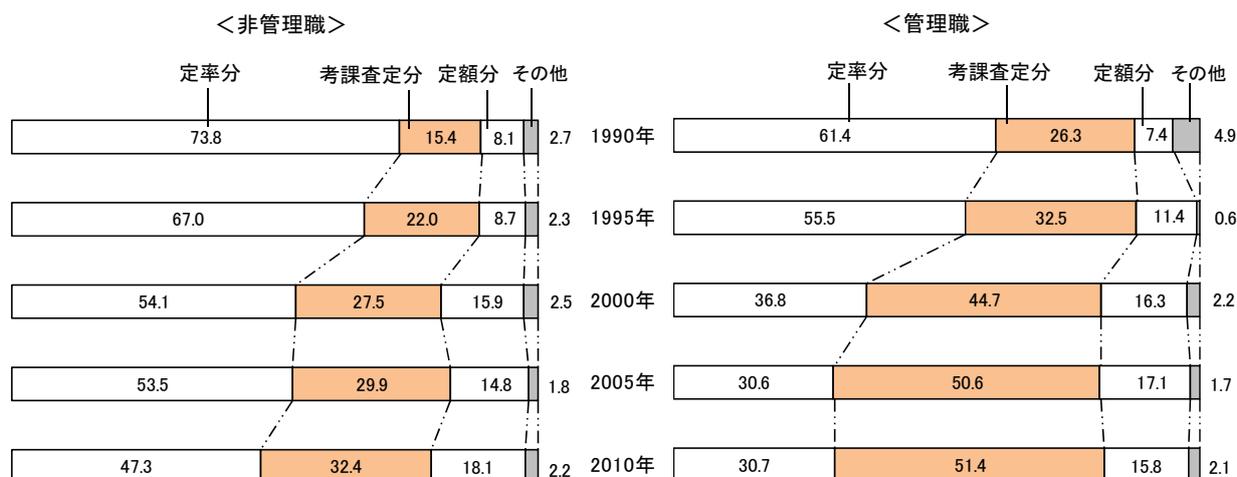
注：対前年増減率の△印は減少を示す

## 3. 配分割合 (図表3)

配分割合は、非管理職・管理職とも、1990年代前半から「定率分」が減少し、「考課査定分」が上昇しており、近年は非管理職では「定率分」が約5割、「考課査定分」が約3割、管理職では「定率分」が約3割、「考課査定分」が約5割で推移している。

この傾向は、2010年調査でも同様であり、非管理職・管理職ともに大きな変化はみられなかった。

図表3 賞与・一時金の配分割合の推移 ー全産業、夏季ー



注：集計企業数を100.0とした割合

#### 4. 考課査定の幅 (図表4)

標準者を0とした考課査定の幅は、非管理職よりも管理職で広く設定する企業が多く、この傾向は強まっている。

査定幅の「最高と最低の幅が同じ場合」においては、査定幅が±30%以上の企業割合は、非管理職で19.6% (2009年調査18.9%)、管理職で25.0% (同23.6%) となっている。

査定幅の「最高と最低の幅が異なる場合」においても、最高幅が30%以上の企業割合は、非管理職で46.1% (2009年調査43.0%)、管理職で57.4% (同49.9%)、最低幅が30%以上の企業割合は、非管理職で46.9% (同41.5%)、管理職で59.5% (49.0%) と、いずれも2009年調査より増加した。

図表4 賞与・一時金における考課査定幅の分布状況 ー全産業、夏季ー

区分		計	10%未満	10%以上20%未満	20%以上30%未満	30%以上40%未満	40%以上50%未満	50%以上	
非管理職	最高と最低の幅が同じ場合	100.0 (97社)	25.8	36.1	18.6	6.2	4.1	9.3	
	最高と最低の幅が異なる場合	最高幅	100.0 (115社)	13.0	26.1	14.8	12.2	8.7	25.2
		最低幅	100.0 (115社)	16.5	21.7	14.8	11.3	5.2	30.4
管理職	最高と最低の幅が同じ場合	100.0 (76社)	22.4	32.9	19.7	7.9	6.6	10.5	
	最高と最低の幅が異なる場合	最高幅	100.0 (89社)	4.5	28.1	10.1	12.4	7.9	37.1
		最低幅	100.0 (89社)	12.4	19.1	9.0	11.2	6.7	41.6

注：小数点第2位以下四捨五入のため、合計が100.0にならない場合がある

以上